

主なマスター、仕訳の処理は以下のとおりです。

項目	操作内容	
セキュリティ関係 マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しない領域ユーザーのみを繰り越します。
法人基本情報	新規更新	会計期間を1年更新し、その他の内容を更新先に繰り越します。 更新元の会計期間が1年に満たない場合は、更新元の期末日の翌日から1年に設定します。
	再更新	内容を繰り越しません(新規更新時の内容のままです)。
科目マスター (主科目、補助科目、 中科目、小科目)	新規更新	すべての内容を更新先にコピーします。 貸借対照表科目と補助科目については、更新元データから科目の残高を算出し、更新先の期首残高に反映します。
	再更新	更新先に存在しないコードの科目のみを繰り越します。
事業区分	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの事業区分のみ繰り越します。
サービス区分マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードのサービス区分のみ繰り越します。
拠点区分マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの拠点区分のみ繰り越します。
管理グループマスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの管理グループのみ繰り越します。
摘要マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの摘要のみ繰り越します。
自動仕訳マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの自動仕訳のみ繰り越します。
予約伝票マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの予約伝票のみ繰り越します。
配賦基準マスター	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの配賦基準のみ繰り越します。
配賦パターンデータ	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの配賦パターンのみ繰り越します。
仕訳データ	新規更新	更新元のデータを集計し、更新先の期首残高に反映します。
	再更新	更新元のデータを集計し、更新先の期首残高に反映します。更新先で入力済みの仕訳は削除されずに、そのまま残ります。
次年度予算データ	新規更新	期末更新処理を行った場合には、次年度予算データは更新先の当初予算データにコピーされます。
	再更新	更新先の当初予算データを変更しても、2回目以降の期末更新処理を行うと、更新先の当初予算データが、更新元の次年度予算データで書き換えられてしまいます。

項目	操作内容	
内部取引消去調整データ	<p>期末更新処理を行った場合には、更新元の内部取引消去額が更新先の過年度内部取引消去調整データにコピーされます。したがって、更新先の過年度内部取引消去調整データを変更しても、2回目以降の期末更新処理を行うと、更新先の過年度内部取引消去調整データが更新元の内部取引消去データで書き換えられてしまいます。ご注意ください。</p> <p>※更新先の過年度内部取引消去調整データの変更は、再度、期末更新処理を行うことがないと確定した時点で行ってください。</p>	
過年度実績データ	<p>期末更新処理を行った場合には、更新元の決算書データが更新先の前年過年度実績データにコピーされます。</p> <p>したがって、更新先の過年度実績データを変更しても、2回目以降の期末更新処理を行うと、更新先の過年度実績データが更新元の決算データで書き換えられてしまいます。ご注意ください。</p> <p>また、更新元の前年から3年前までに当期の前々年から4年前の過年度実績データがコピーされます。</p> <p>※更新先の過年度実績の変更は、再度、期末更新処理を行うことがないと確定した時点で行ってください。</p>	
伺書パターン	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないコードの伺書パターンのみ繰り越します。
伺書レイアウト	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先に存在しないレイアウト名の伺書レイアウトのみ繰り越します。
注記・附属明細書データ	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	「注記データを更新する」「附属明細書データを更新する」にチェックマークが付いている場合のみ繰り越します。
財産目録設定データ	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	「財産目録詳細内容を更新する」にチェックマークが付いている場合のみ繰り越します。
電子開示システム事業区分・サービス区分	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先の全ての内容を削除してから、全ての内容を更新先に繰り越します。
電子開示システム勘定科目	新規更新	すべての内容を更新先に繰り越します。
	再更新	更新先の全ての内容を削除してから、全ての内容を更新先に繰り越します。

以下の項目については、新規更新時のみ内容を更新先に繰り越し、再更新時には内容を繰り越しません。期末更新後に更新元の内容を変更した場合は、更新先で確認・修正を行ってください。

- ・入力サービス区分初期値マスター
- ・内部取引消去科目
- ・銀行マスター
- ・検印パターン
- ・決算書備考文字列データ
- ・経営分析データ
- ・ほのぼのNEXT連動設定データ